

普及現地情報



発信年月日：令和3年(2021年)11月9日
所属名：大津・南部農産普及課
番号：A21010
部門分類：610(担い手育成)
発信者名：川村、山本

コロナ禍での食育・体験授業

10月5日、当課は青年農業者クラブによる小学生45名を対象とした食育・体験授業の開催を支援しました。

大津地域青年農業者クラブ^{きらり}季楽里(以下、「クラブ」)は、毎年、大津市木戸小学校5年生を対象に食育の出前授業を開催しています。今年5月末に行った田植え見学では、教室にいる生徒に現地からの映像をリモート配信したほか代かき後の泥を触る体験を組み合わせで実施しました。今回は水稻の収穫作業の様子を2つのクラスに対して各教室で説明したほか、実際の稲を用いて食育授業を実施しました。

「稲刈りからお米になるまで!」というタイトルで籾摺りから精米までの工程を写真付きのスライドでクラブ員が説明し、動画を交えて紹介することで、生徒を飽きさせることなく授業が進みました。実物を持ち込んで授業をしてみてはどうかという普及側からの提案で、教室に籾摺り機のローラーを持ち込み、生徒に籾摺りを体験してもらえました。「籾から玄米がでてきた」、「お茶碗一杯分までもみすりするのは大変!」など体験を交えた授業は生徒にも好評でした。

当課の働きかけで、食育・体験授業の改善点についてクラブ内の意見を集約したところ「クラブの食育担当者と小学校との事前打ち合わせが不十分な点があった」、「クラブで取り組む事業としてはメンバー全体の関わりが薄かったのではないか」、「資料の作成等、メンバー全体で考える時間があっても良かったのではないか」など今後のより良い活動に繋げるための提案がありました。

当課では、今後、with コロナ、after コロナの状況下で実施できるクラブの食育活動やクラブ員の資質向上につながる活動を支援していきます。



色見本を用いた収穫適期の説明



コンバインのしくみを解説